

地球温暖化対策実行計画の令和 6 年度実績報告

1 趣旨

令和 4 年度から令和 8 年度までの地球温暖化対策実行計画では、市の事務事業により排出される温室効果ガス排出量を令和 8 年度までに平成 25 年度比で約 35%削減し、4,411.9 t-CO₂にすることを目標としています。

本報告では、令和 6 年度における市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量の実績を取りまとめ、実績および今後の取組内容について報告します。

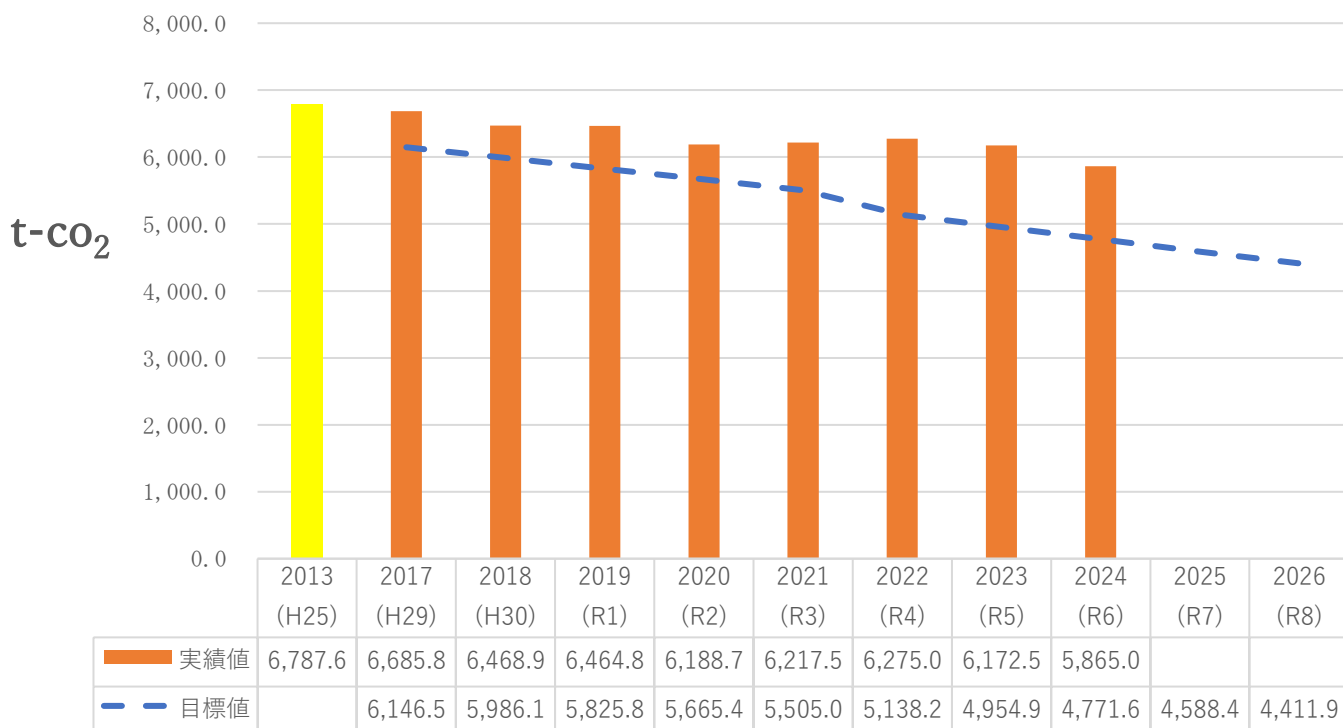
2 実績報告

令和 6 年度における市の事務事業における温室効果ガス排出量は 5865.0t-CO₂ となり、計画目標値である 4,771.6t-CO₂ を 1,093.4t-CO₂ 上回り、目標達成ができませんでした。

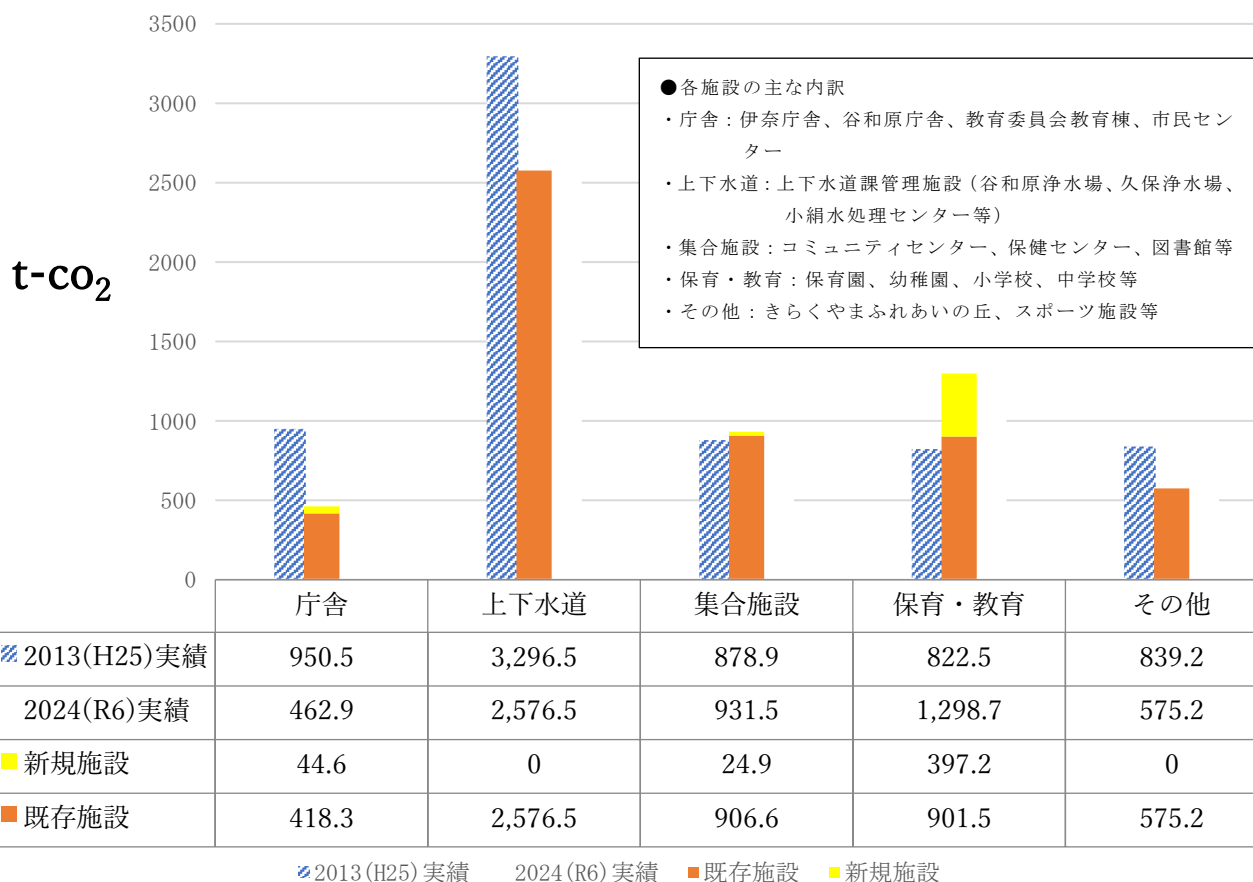
目標未達成の要因の一つとして、基準年度（平成 25 年度）と比較して公共施設の新設が進み、施設の増加による電力使用量等が増加したことが挙げられます。

しかしながら、排出量は前年度比で約 4.9%の減少、基準年度比では約 13.6%の削減となっており、一定の取組の効果は現れている状況です。

温室効果ガス排出量の目標と実績



温室効果ガス排出量の実績



※主な新規施設（基準年度である平成25年度以降に新設された公共施設）

- みらい平コミュニティセンター（平成26年11月）
- 陽光台小学校（平成27年4月）
- 富士見ヶ丘小学校（平成30年4月）
- みらい平市民センター（令和3年8月）
- 富士見ヶ丘小学校 増築（令和4年4月）
- 谷和原中学校 増築（令和5年4月）

※温室効果ガス排出量の算出方法

$$\text{温室効果ガス排出量} = \text{活動量} \times \text{温室効果ガス排出係数} \times \text{地球温暖化係数}$$

温室効果ガス排出係数・・・電力会社が電力を作り出す際に、どれだけの温室効果ガスを排出したか、指し示す数値。係数は、電力会社ごとに異なる。

地球温暖化係数・・・二酸化炭素（1）、メタン（25）、一酸化二窒素（298）
 ハイドロフルオロカーボン（1430）

3 各施設の温室効果ガス排出量の実績

「庁舎」については、各施設の活動量に大きな変化はありませんでしたが、電気事業者別の温室効果ガス排出係数の数値が前年度より下がったため、温室効果ガス排出量が減少しております。

「上下水道」については、各施設と比較すると上水道の配水設備や下水道の処理施設の稼働により、温室効果ガス排出量が最も多くなっております。

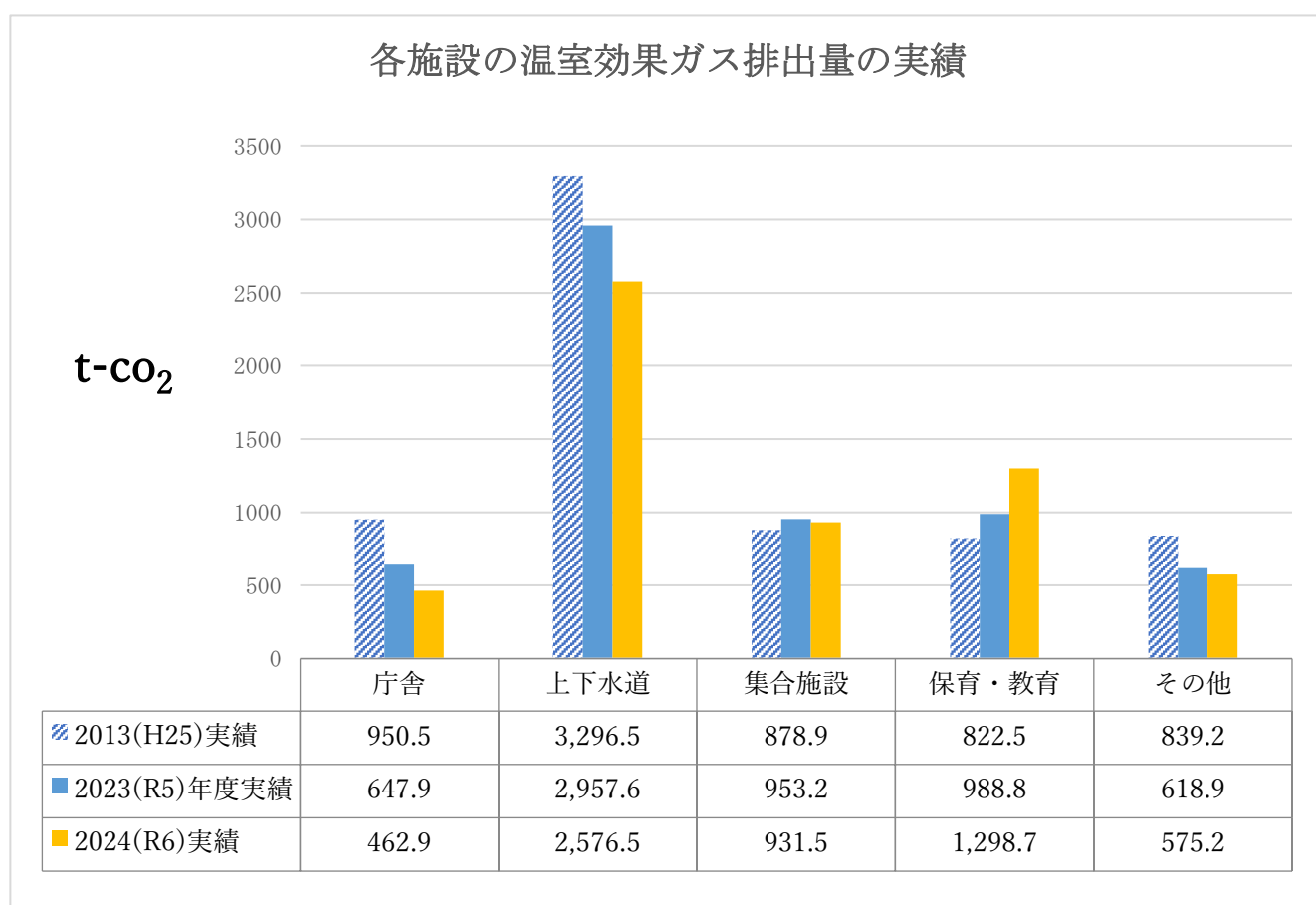
昨年度は、小絹水処理センター管理棟の空調を更新し、エネルギー効率が向上したことにより、温室効果ガス排出量の減少に繋がっております。

また、電気事業者別の温室効果ガス排出係数の数値が前年度より下がったため、温室効果ガス排出量が減少しております。

「集合施設」については、「庁舎」と同様に各施設の活動量に大きな変化はありませんでしたが、電気事業者別の温室効果ガス排出係数の数値が前年度より下がったため、温室効果ガス排出量が減少しております。

「保育・教育」についても、各施設の活動量に大きな変化はありませんでしたが、電気事業者別の温室効果ガス排出係数の数値が前年度より上昇したため、温室効果ガス排出量が増加しております。

「その他」の施設については、きらくやまふれあいの丘すこやか福祉館入浴施設の閉館により、温室効果ガス排出量が減少しております。



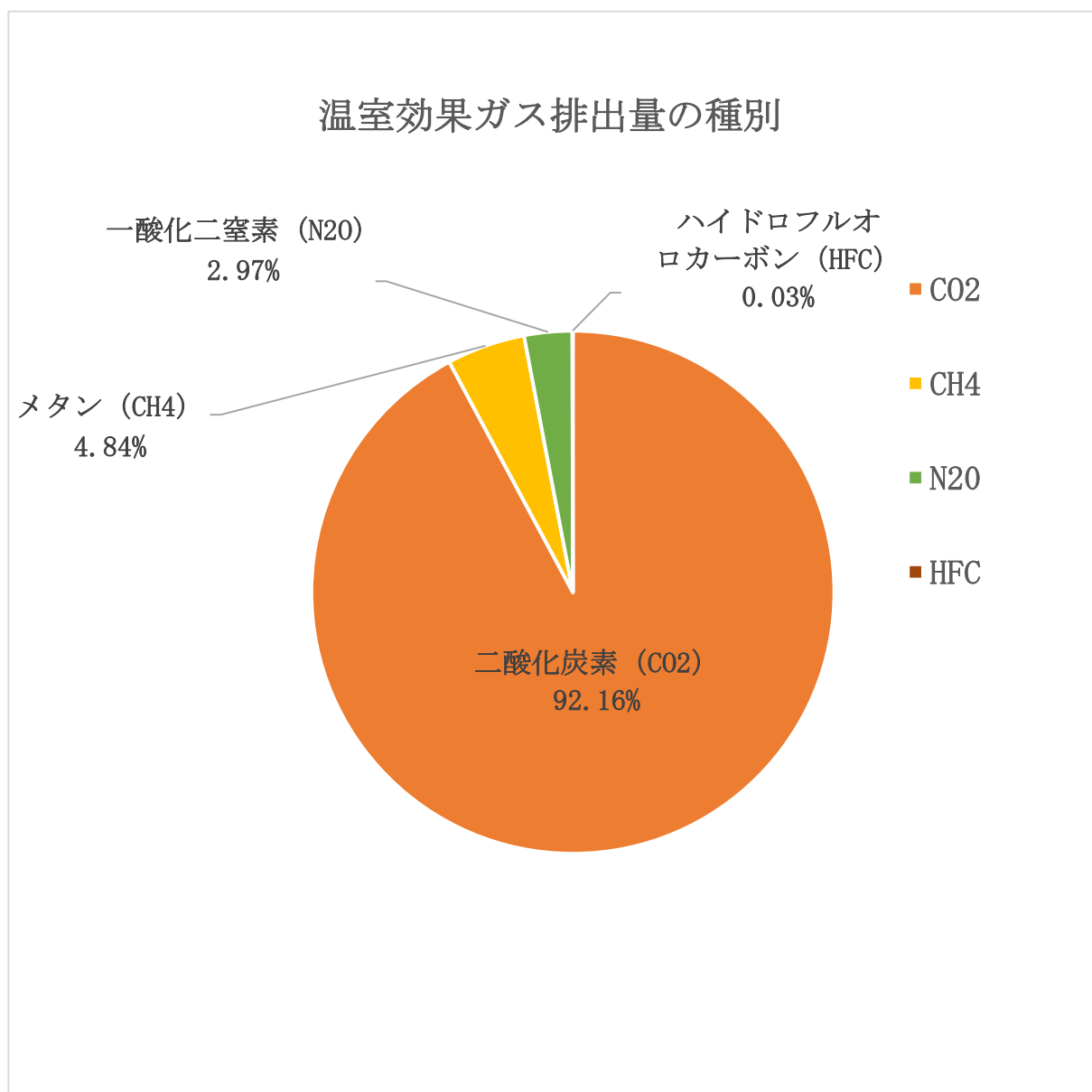
4 温室効果ガス排出量の割合

令和6年度における市の温室効果ガス排出量の種別内訳として、二酸化炭素(CO₂)約92%、メタン(CH₄)約4.8%、一酸化二窒素(N₂O)約2.97%、ハイドロフルオロカーボン(HFC)1%未満となりました。

二酸化炭素(CO₂)は、電力の使用や暖房用灯油、自動車用ガソリン等の使用により排出されます。

メタン(CH₄)及び一酸化二窒素(N₂O)は、下水道、浄化槽の排水処理等により排出されます。

ハイドロフルオロカーボン(HFC)は、自動車のエアコン使用時に排出されます。



5 今後の取組

令和6年度における温室効果ガス排出量の92.16%が二酸化炭素となっており、そのうち電気の使用による排出が84.90%を占め、電気の使用量を減らす取組が重要となります。

令和7年度は、小絹中学校体育館・きらくやまふれあいの丘すこやか福祉館へ太陽光発電設備の導入を進めています。

併せて、市のゼロカーボンシティの実現に向けて「地球温暖化対策実行計画区域施策編」を策定し、市民・事業者・行政それぞれの役割に応じた取組を推進していきます。

また、公共施設における照明のLED化を進めており、消費電力を抑えることで、温室効果ガスの削減が期待できます。

今後も目標達成するために、地球温暖化対策実行計画に掲げている温室効果ガス削減の取組を全施設で推進していきます。

